

1 高等学校 ホームルーム活動指導案

1 題材 「性の多様性を考えよう」

2 題材設定の理由

近年、性の多様性についての社会的関心が高まっており、度々メディア等でも取り上げられている。国内人口の7.6%※、約13人に1人が性的マイノリティという報告もあり、統計的にはクラスの1～2人はいずれかの性的マイノリティであると考えられている。身近なテーマであるものの、差別的な情報や意識が広く共有されている現状があり、学校現場では当事者がいじめの対象になることもある。性的マイノリティをめぐる人権問題を認識するとともに、性の多様性について正しい理解を深め、多様な性を「個性」として認められるような態度を育てたいと考え、本題材を設定した。

※電通ダイバーシティ・ラボによるLGBT調査(2015年4月)

3 ねらい

- (1) 生徒一人一人が自他の個性を尊重し、互いによさを認め発揮し合えるような開かれた人間関係を形成する。
 - (2) 青年期の悩みや課題について、身近な人の青年時代を題材とした話し合い活動を通して、自分と他者の関係について考えさせる。
- ### 4 人権教育上のねらい(様々な人権問題「性同一性障害をはじめとした性的マイノリティ」)
- 性的マイノリティを正しく理解し、多様な性を受け入れ、互いの違いを尊重しあう態度を身に付ける。

5 人権教育上の視点

- (1) 性の多様性について知識を獲得し、性的マイノリティをめぐる人権問題に関する理解を深める。
(知識)
- (2) 全ての人は性の多様性の一部に位置付けられることを認識し、性的指向及び性自認をめぐる性の多様性の問題を自己の問題として受け止めることができるようになる。
(価値・態度)
- (3) 性的マイノリティを自認する人の気持ちに共感できる感受性を育成する。
(技能)

6 評価

- (1) 性の多様性について関心を持ち、正しい知識と理解を深めることができたか。
- (2) 私たち一人一人の課題として、性的指向及び性自認をめぐる性の多様性の問題を考えることができたか。

7 展開

◎人権教育上の配慮

	学習活動(○主な発問)	・指導上の留意点	教材資料
活動の導入5分	1 レインボーフラッグから、性の多様性について関心を持つ。 ○これは何を意味する旗か知っていますか? 	・性の多様性を象徴する旗であることを説明するとともに、性的マイノリティの存在を認識させ、関心を高めさせる。	レインボーフラッグ

<p>2 本時の課題を知る。</p>	<p>性の多様性について考えよう。</p> <p>・「性の多様性を考えよう！」のプリントを行う</p> <p>○人間の性がどのくらい多様か知っていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セクシュアリティの4要素 ・さまざまなセクシュアリティ <p>3 性的マイノリティを自認する人のエピソードを読む。</p> <p>○エピソードを読んで、気付いたことをワークシートにまとめよう。</p> <p>4 グループになり、ワークシートをもとに考えたことを一人ずつ発表しあう。</p> <p>○ワークシートをもとに、一人ずつ意見を発表しよう。</p> <p>5 学校や社会の中で身体に性別違和感を持たないことや異性愛が前提となっていることは何かを話し合う。</p> <p>○学校や社会の中で、身体に性別違和感を持たないことや異性愛が前提となっていることに、どんなものがあるか、グループで話し合みましょう。</p>	<p>・性の多様性についての理解を深める</p> <p>・LGBTなどの性的マイノリティだけではなく、異性愛などのマジョリティも含めて説明する。</p> <p>◎性の多様性が尊重すべき人権課題であると理解させる。(知識)</p> <p>・性の多様性および性的マイノリティをめぐる人権問題に関する理解を深める。</p> <p>◎どんな発言でも否定したりせずに、認め合うことが大切であることを指導する。(技能)</p> <p>・高校生活でどのような困難さがあるか、具体的に考えさせる。</p>	<p>ワークシート1</p> <p>ワークシート2 「あるトランスジェンダーのエピソード」</p>
<p>活動のまとめ 10分</p>	<p>6 どのようなセクシュアリティの人も安心して生活できる環境や社会をつくるために考えるべきことを挙げる。</p> <p>○どのようなセクシュアリティの人も安心して生活できる環境や社会をつくるために必要なことは何だろうか。また、私たちにできることは何だろうか。</p> <p>7 本時の活動を振り返る。</p>	<p>◎性の多様性を正しく理解したうえで、性的マイノリティをはじめ全てのセクシュアリティの人々が生きやすい社会をつくるために私たちができることを主体的に考えさせる。(価値・態度)</p>	

あるトランスジェンダーのエピソード：「あなたは男の子なんだよね」

「季刊セクシュアリティ」74号（2016年1月）、エイデル研究所より

C先輩。大学時代の女子サッカー部の先輩OG。

セクシュアリティについても精通していて、大学時代はスポーツにおけるジェンダー・セクシュアリティをテーマに卒論を書いたほどだ。

大学3年の冬、女子サッカー部のキャプテンをしていた私は、私の代の最後のミーティングで、みんなに「ごめん、ごめん。」を繰り返してただ号泣していた。周囲は驚き、何が起こったのか分からず、あぜんしたり、一緒に泣いてしまったり。

何分経ただろう、見るに見かねたC先輩が一言。

「あなたは男の子なんだよね。」

私は大きく「うん」と頷いて、泣きながら最後のミーティングは終了した。

それまで性同一性障害について直接サッカー部の人たちに話したことはなかったが、ジェンダーに関する授業もあったためセクシュアリティについて学んだことがある人も多く、入部当初から何となく私を男性として扱い、私の望む在り方を尊重してくれていた。しかし、キャプテンとなり、他部や学外チーム等とのやりとりが増えると、私は「女子サッカー部のキャプテン」として出て行かねばならない。そのたびに「女子」という枠組みの中にいる自分のはっきりと突きつけられる。それがどうにも私を精神的に追い詰めていってしまったのだ。

後日、私は部員たちを前に自分をカミングアウトする手紙を読んだ。自分は性同一性障害であること、女子という枠組みはどうにも耐えられなかったこと、よいキャプテンだったと言ってくれる仲間に対してどうしてもよかった、ありがたいとは思えない自分に対する苛立ち、ずっと大好きな仲間に自分を偽って嘘をついてきたような罪悪感、いろいろ涙の理由や想いを伝えてみたのである。きちんとまとめて言葉を吟味して行ったカミングアウトはこれが初めてだった。部員はみんな、ただじっと受け止めてくれて、後に言葉をかけてくれたり、相談にのると言ってくれたり、手紙で返事を書いてくれたり、理解しようとしていることや味方だということを伝えてくれた。本当に私は人に恵まれている。

そんな返事の中で、みんな「男なんだね」と返してくれる。これはC先輩の言い回しがとても大きかったように思う。「男の子になりたい／なった」ではなく「男の子なんだ」。

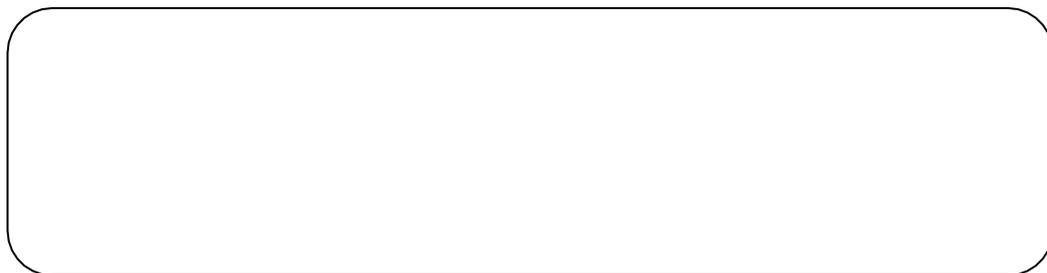
その後、私生活でも講演でもいろいろな場面でカミングアウトを繰り返してきたが、「女から男になった」と表現されることが意外に多いことがわかってきた。私の性自認は幼少期からずっと男。

パッケージは変化してきたけど、自分はずっと男なんだという自認がある。当時は気付いていなかったが「あなたは男の子なんだよね」という言葉が、いかに私自身を尊重してくれた言葉だったか今ならわかる。相手の心に寄り添う方法のひとつは、相手の言葉をそのまま共有することなのかと今さらながらC先輩の言葉に学んだ。

筆者注：このエピソードは個人的なものであり、LGBTを自認しているすべての人の気持ちを代弁したものではありません。

1. 「あなたは男の子なんだよね」を読んで考えよう。

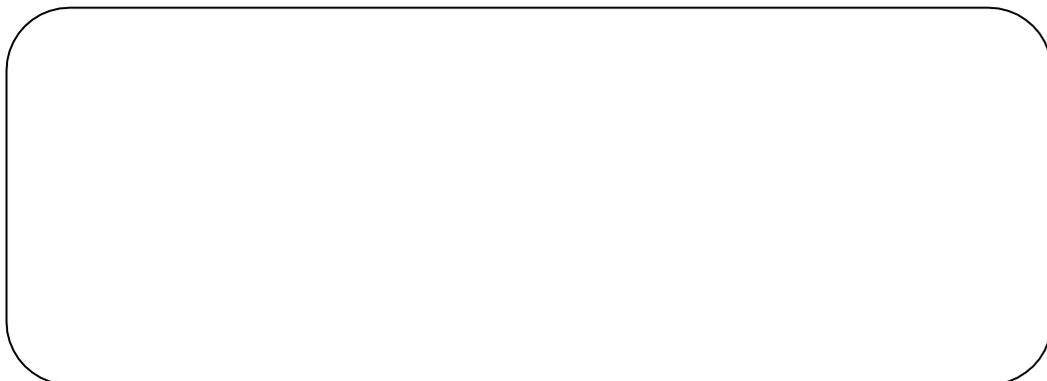
Q 1. ミーティングで泣いてしまった時、「私」はどんな気持ちだったのだろう。



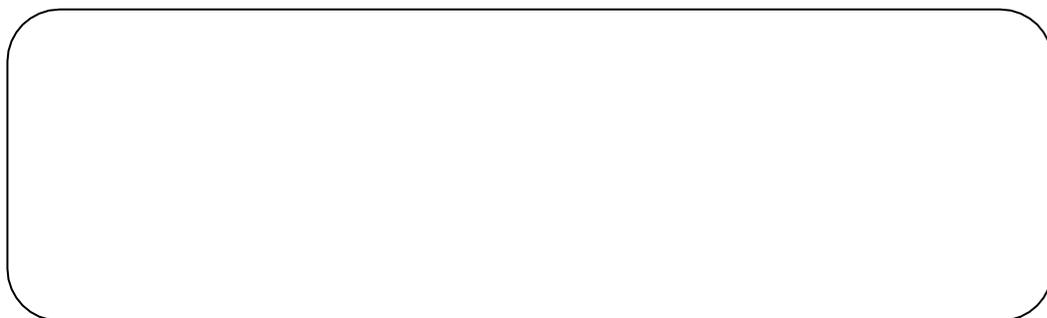
Q 2. C先輩はなぜ「男の子になりたい」ではなく、「男の子なんだよね」と言ったのだろうか。



2. 学校や社会の中で身体の性別に違和感をもたないことや異性愛が前提となっていることにはどのようなものがあるだろうか。



3. どのようなセクシュアリティの人も安心して生活できる環境や社会をつくるために必要なことは何だろうか。また、私たちにできることは何だろうか。



年 組 番 氏名 _____